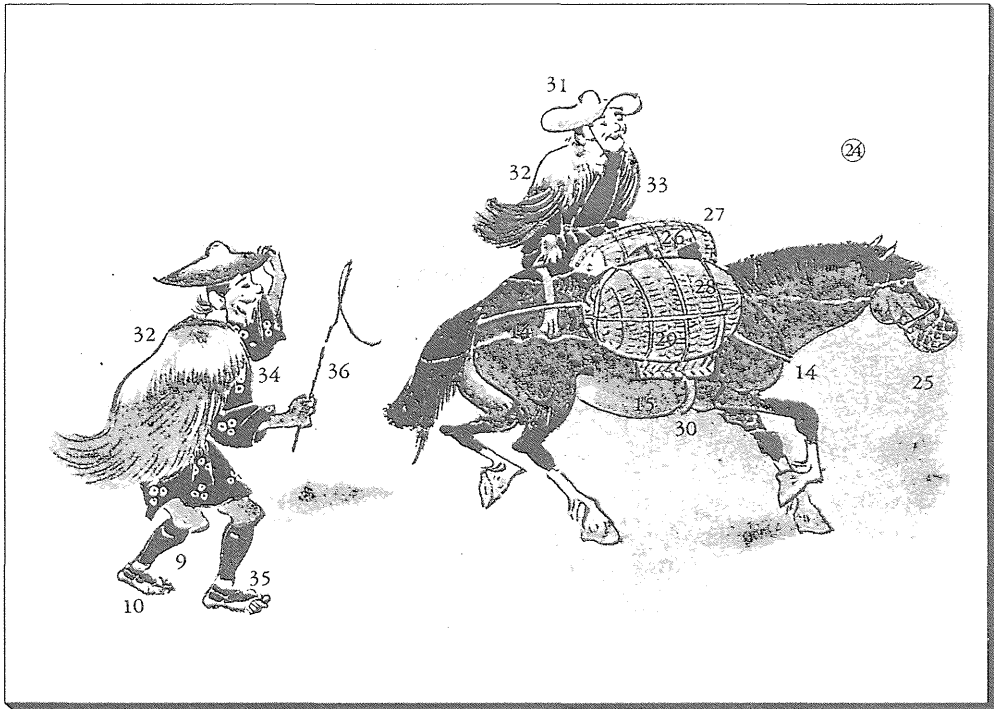


比較民俗研究

for FOLKLORE STUDIES of ASIA

28



2013/11 比較民俗研究会

■ 澁澤敬三(1896～1963)の比較民俗観

私は、日本文化というものをアンパン文化と思っているのです。アンパンというのは日本独特のものであるが、餡は中国から、外側のパンは西洋から由来したものが、それらの二つが日本で餡パンという他に類のない妙なものをつくっているのです。こうしたことは、言語に於いても文字に於いても言われるのであります。(中略)

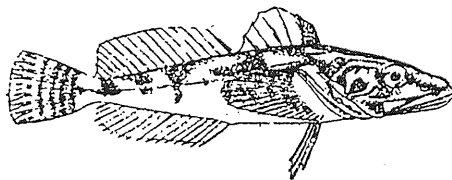
野菜なども七草以外のもので、日本固有のものが何種あるかというまことに心細い話で、これは日本原産だといって簡単に割り切れないもので、こうした問題を研究しようとしたのが私どもの立場であります。

(「文化財について」昭和30年代の講演 著作集・第5巻 258頁)

わが国の魚名には外来語と覚しきものきわめて少ないこともその特徴の一つをなすものであろう。日本語全体とその中の外来語との全関係はしばらくおき、民具等について見るに、民具そのものの文化伝播とともに入り込んだ外来語と覚しきものは想像以上に多いようであるし、魚類以外の生物名にしても外来語は相当に指摘できる。しかるに魚名においてはたとえ指摘できたとしても寥寥たるのみならず、他の事物が多く漢字を用いて表示されつつしかも外来の漢音、呉音または片カナで訓まれて日本語化してしまったのに比べると、魚名においては、たとえ漢字を当てはめたとしてもその訓みは多く古来の日本語を用いている点も注目すべきであろう。(中略)

このことは単に他の生物の称呼との比較のみならず他の一般社会事物に関する称呼と比べてみる時、思いなげに過ぎるものがあるであろう。ただし、非常に古く成立した日本の魚名の構造の中に周囲民族の古語が取り入れられているかも知れないが、この点については将来学者の考究をまつほかないのでここには触れない。

(『日本魚名集覧』1943 著作集・第2巻 12頁)



第 1925 図 やまのかみ

“やまのかみ” 澁澤敬三『日本魚名の研究』1959より

目 次

第 28 号

巻頭言

- 植民主義者が記念されている南アフリカ 崔 吉城(1)

論文

- 1920年代前後における日韓比較説話学の展開 金 広植(5)
漁村家族生活における女性の役割変化 于 洋(29)
信仰か、余暇か 岳 永逸・王 耀鳳(58)
沖縄における“死者を送る人々” 古谷野 洋子(91)

特集1:文化資源としての民俗文化

- 観光消費への文化人類学的アプローチ 周 菲菲(111)
世界遺産制度の問題点に関する一考察 高倉 健一(127)
チベットの発展における非物質文化遺産の保護について 李 利・梁 景之(146)

特集2:信仰伝承と音楽

- 中国江南呉語地区の劉猛将信仰と讚神歌 鄭 土有(166)
かくれキリシタンと音楽 小泉 優莉菜(179)

研究・フィールドノート

- 戦前期のブラジル移民の建築遺構 内田 青蔵(203)
宇治茶祭り現場の争点と志向 鄭 書京(214)
現代を生きるアイヌ民族とその文化伝承 黄 英蘭(223)

書評

- 千年の愛 金 泰順(230)

「第5期 IEL 国際史詩学と口頭伝承研究講習会」参加記

私の最も好きな季節の秋、最も好きな都市、北京で開催された「第5期 IEL 国際史詩学と口頭伝承研究講習会」(於・中国社会科学院、11月28・29日)に同期の黄溶冰さんと参加した。中国社会科学院・民族文学研究所主催の本会は、アメリカ、フィンランドはじめ世界の著名な民俗研究者が、共通テーマのもとに共同して院生・若手研究者に講義をする試みで、受講者には修了証が出される。神奈川大学の大学院に入学し、はじめて民俗学に接触した私にとって、民俗学の世界は日本の学界のものばかりであった。ここで世界の民俗学界の先生と話す機会を得、一緒に講習を受けた中国の院生たちとの愉快的やりとりの中で、中国国内はじめ諸外国の民俗学の現状を知ることができた。

現在の中国では、「与时俱进」(時代と共に前進する)の言葉が流行している。二日間の講習を受け、今日世界中で、民俗学研究も時代とともに前進していることを強く感じた。人文科学である民俗学も、コンピュータ技術との結合を深めている中で、多くの教授が自身の研究におけるデジタル化、データ処理とその活用を紹介した。中でも北京師範大学の「仏教伝播とその影響」グループの発表は刺激的であった。佐野先生は民具のデータベース化の必要性について発表し、関心を集めた。

私自身も今夏、2007年の能登大地震で被害を受けた石川県輪島市の角海家の古文書と

民具調査に参加しその活動に学んでいたのも、大変参考になった。数多くの民具が広大な屋敷に置かれ、大小その種類もかかわらず、すべての民具にラベルが貼られ、写真が取られ、分類され、特徴が記載され、パソコンに入力されていて、展示や研究にとって便利だけでなく、民具が大切に保存されていると思った。この海辺の屋敷は生まれ変わったのである。

一方、中国は5千年の歴史、広大な国土と多くの民族を有しているだけに、さまざまな生活・生産具が多いが、その保存・調査研究の状況は楽観的とは言えない。多くの民具が消え逝くとともに、その記録が残されないために後代の研究に多くの障害が生じると考えられる。中国民俗学会の研究者もこの状況を憂い、民具を救う仕事を始めた。日本で民俗学を学ぶ中国出身の私は、中国の民具の研究と保護に将来貢献し、中・日両国の民俗学界に友誼の橋を架けようと思いを新たにしたい。

最後の晩には、社会科学院の葉涛(世界宗教研究所)、色音(民族研究所)両先生、歴史民俗資料学出身の北京大学の王京さんも交え、四合院住宅を改築した食堂で伝統的な北京料理をご馳走になった。民俗学を専攻する私にとって刺激に満ち、充実した晩秋の北京の二日間であった。(黄少博・神奈川大学歴史民俗資料学研究科前期課程)

「比較民俗研究」投稿・入手連絡先

次の箇所を連絡先とします。

- 日 本 〒 221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1
神奈川大学大学院 歴史民俗資料学研究所 佐野研究室
TEL.045-481-5661(内線4022) FAX.045-413-4151
- 韓 国 156-756 大韓民国 ソウル特別市銅雀区黒石洞221
中央大学校大学院民俗学科 任 章赫研究室
TEL.02-820-5233
- 中 国 10008 中華人民共和国 北京市海淀区中関村南大街27号
中国社会科学院民族学人類学研究所 色音研究室
s.hu981@gmail.com
- 台 湾 106 台湾台北市和平東路一段162号
台湾師範大学台湾史研究所 蔡 錦堂研究室
TEL. 02-7734-1481 tsainlin@seed.net.tw
- ブラジル 05508-900 AV.Prof. Lineu Prestes 159, Cidade Brasil
サンパウロ大学 日本文化研究所 森幸一研究室
TEL.55(11)3091-2426. kmori@usp.br

編 集 後 記

今年は澁澤敬三没後50年。昨年は柳田國男没後50年の年であった。民具、水産史を軸に常民の暮らしの体系化を試みた澁澤の人と学問が、本年9月の国立民族学博物館「屋根裏部屋の博物館」の特別展はじめ、11月、日本民具学会「澁澤敬三の民具研究」、来年2014年3月、国際常民文化研究機構「澁澤敬三の資料学」と題したシンポジウムの開催など、さまざまな側面から取り上げられる。庶民の日常生活を民具や図絵・映像といった可視的資料から捉える澁澤の民具学は、日常史の方法として国際的にも注目されている。韓国では、100年後に残す庶民資料として国立民俗博物館が各地方毎、一軒の家の民具の悉皆調査を進めており、その成果はweb上で見ることができる。民具は物であるだけに庶民の生活文化の比較には有効である。民具名称の国際標準化、検索タグ化も試みられている。比較民具研究の具体的成果に期待するところ大である。

『比較民俗研究』 第 28 号

2013 年 11 月 30 日発行

編集発行 比較民俗研究会
神奈川大学大学院 歴史民俗資料学研究所 佐野研究室
〒 221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL(045)481-5661(内線4022) FAX(045)413-4151
E-mail : sanok010@kanagawa-u.ac.jp

印刷所 朝日印刷株式会社

COMPARATIVE FOLKLORE STUDIES

NO.28 November, 2013

Preface

Proponents of Colonialism Memorialized in South Africa CHOI Kilsung (1)

Articles

Development of Japanese-Korean Comparative Narrative Studies Around the 1920s
..... KIM Hongsik (5)

Changes in the Roles of Women in Fishing Village Families YU Yang (29)

Religious Practice or Leisure? YUE Yongyi (58)

“People Who Send Off the Dead” in Okinawa KOYANO Yoko (91)

Special Edition 1 : Folkloric Culture as a Cultural Resource and Associated Issues

A Cultural Anthropological Approach to Tourism Consumption ZHOU Feifei (111)

A Consideration of Problems Concerning the World Heritage System
..... TAKAKURA Kenichi (127)

Protection of Non-Material Cultural Heritage with the Development of Tibet
..... LI Li, LIANG Jingzhi (146)

Special Edition 2 : Music and Passing Down Religion

Religious Songs and Liu Mengjiang Faith in Wu Speaking Regions of Jiangnan, China
..... ZHENG Tuyou (166)

Kakure Kirishitan and Music KOIZUMI Yurina (179)

Research Note

Architectural Remains left by Pre-War Brazilian Immigrants UCHIDA Seizo (203)

Points of Contention and Directions of the Uji Maccha Festival ZHENG Shujing (214)

Folk Tradition of Ainu People in Modern Society HUANG Yinlan (223)

Book Reviews

“Love in Thousand Years” KIM Taesoon (230)

Edited and Published by

COMPARATIVE FOLKLORE SOCIETY

Institute of History & Folklore Studies

Kanagawa University

Yokohama-Shi, Kanagawa-Ken, Japan 〒 221-8686

Tel. 045-481-5661 Fax. 045-413-4151